４　書くことがうまくできない

学校生活の様子

Ｇさんは、進んで自分の考えを発表し、積極的に学習に取り組みますが、書く活動になると、鏡文字になる、板書をノートにうまく書き写せない、似ている形の字の間違い、漢字の細かい書き間違いなどが見られます。間違うたびに指導していますが、同じ間違いを繰り返してしまいます。

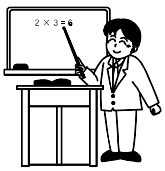
実態把握

- 文字の形を正確にとらえることがうまくできない。
  位置関係をとらえたり、形を見分けたりすることが難しい。
- 文字を正確に記憶することがうまくできない。
  文字の構成をとらえることが苦手である。
- 目と手を協応させることが、うまくできない。

考えられる支援の手立て

- ◇へんやつくりとなるような基本的な形の漢字を覚えさせ、へんとつくりの合成の位置関係をつかませる。
  ◇書き順の基本的なきまりを覚えさせる。
  ◇似ている漢字などを集めて、違う部分を色分けして示す。
- ◇カードを使ったり、色分けをしたりして、へんとつくりの組合せで覚えさせる。
  ◇漢字を分解し、語呂合わせなど、聴覚を利用して覚えさせる。
  例：学→ツとワの下に子ども
  校→木の横になべのふたとお父さん
- ◇文章を声に出して読みながら書かせる。
  ◇補助具や定規を使って、書いているところだけが見えるようにする。
  ◇板書をプリントにして配り、手元に置いて板書を書くようにさせる。

その他の支援のポイント



○マス目の大きいノートや罫線のある用紙を使うようにする。
○ワークシートを用意し、板書のすべてを書き写すのではなく、ポイントだけを書き写せばよいようにする。
○文字を練習する際は、その言葉の意味や成り立ちなどを知らせ、興味をもって学習できるようにする。
○漢字テストの際に、例えば、◎（正答）と○（準正答）を設けるなど、失敗体験を積み重ねるのではなく、努力を認めることができるような評価の仕方を工夫する。
○キー操作による文字入力が可能なので、パソコンを活用して文書を作成、印刷するなど、書く力を補い、自信をもたせる方法を検討する。

〔個別的な支援の方法〕

□いつも間違う文字、書き写す際に間違うパターンなどを記録しておき、一人ひとりの支援のポイントを見い出すようにする。
□記憶に残る覚えさせ方を工夫する。
例：漢字の成り立ちなどの付加的な情報の提示、体全体を使った書字学習、似ている漢字の間違い探しのゲーム化、漢字単位ではなくその漢字を含む文章単位での学習など